

第1章 はじめに

1

生涯学習基本構想・基本計画の策定趣旨

私たちの愛するまち高浜市を未来へつなげていくために・・・

高浜市のまちづくりのキャッチフレーズ（第6次高浜市総合計画将来都市像）は「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」。高浜市は、行政だけでなく、住んでいる市民、高浜市をよりよいまちにしていこうと活動している団体、事業所やそこで働いている人、学校等で学んでいる人など、様々な人たちの営みによって成り立っています。それら全てを1つの家族、すなわち「大家族」と見立て、みんなで力を合わせて高浜市を創り上げていこうという意思・決意を示し、お互いの立場を理解・尊重し、支え合いながら、一人ひとりが持っている力を発揮し、つながり合うことによって、まちの多様性・活力の創出につなげていこうといった意味が込められています。

「まなび」の成果を、地域を創る力へ変えていく

「まなび」の第一歩は、一人ひとりが自らの興味・関心から端を発し、趣味・教養といった楽しみや、人生を生き抜いていく力を磨いていくなど、それぞれが持っている能力の多様性の花を開かせていくための取り組みから始まります。

しかし、個人の自己完結的な「まなび」で終わらせてしまうのではなく、そうして培った力を蓄え、人と人、人とまなびを結び合いながら、「まなび」の成果を次世代を担う子どもたちの育成や地域のまちづくりに活かしていく力につなげ、高浜市をみんなで力を合わせて創り上げていくことが、非常に大切となってきます。

自己発見や自己実現といった個人的な学習から始まり、やがては、「まなび」の成果を、ひとづくりや地域を創る力へと高めていく『まなび』と行動が循環しあう生涯学習を進めていくことが、「大家族たかはま」の実現につながっていきます。

子どもたちを「根っこ」と捉え、ひとづくりとまちづくりが還流しあう生涯学習を目指す

特に子どもたちは、次の時代のまちづくりを担う大切な“人財”です。まずは、子どもたちの「まなび」の好奇心が湧き上がってくるように、様々な体験機会を設けるといったアプローチを行うとともに、大人が子どもに夢や希望を語りかけ、子どもと大人がともに学びあい、高めあう世代間の連帯を育むような取り組みを進めていくことも大変重要です。

そうした環境の中で育った子どもが大人へと成長した時、自身の体験を思い起こし、自分の子どもたちの世代に対してアプローチをする、その関わりを通して、さらに自身を高めていくことにつながる、また、まちへの愛着や誇りを深めていく。そんな「ひとづくり」と「まちづくり」が循環しあう生涯学習を展開していくことが大切です。

— これからの高浜市が目指す生涯学習の姿 —
子どもを「まなびの根っこ」に据え、「ひとづくり」が「まちづくり」へとつながる
「まなび」と行動が循環しあう生涯学習

まちづくり

成長した子どもたち、学びによって力を蓄えた大人たちは、
次の世代へ感動や体験を伝えたり、まちづくりへと還元していく

学ぶ意欲につながる感動や体験を、伝えていく役割を果たす

STEP5
社会変革

まなびの成果を
まちを切り拓いていく
パワーに変えていこう

豊かなコ
ミュニケ
ーション
を育む

大学・研究機関

課題解決
に向けて
提案・行
動する

まちづくり団体
ボランティアグループ

STEP3
自己変革

“なりたい自分”を
目指して
自分を変えていこう

企業・商店

講演会・セミナー

STEP4
社会参加

自分の持っている力を
人や地域のために
役立ててみよう

「ひとづくり」から「まちづくり」へ

「まなび」と行動の
循環ネットワーク

文化協会

たかはまスポーツクラブ

夢・希望
を持ち
人生設計
を描く

かわら美術館

趣味サークル

たかはま夢・未来塾

人に教
え・教え
られる

STEP1
自己発見

人は年齢と共に変わっ
ていく。自分も知らない
新たな気づき・発見に
出会うことが
まなびの第一歩

図書館・郷土資料館

公民館

子ども会・キッズクラブ

学校 地域

家庭

STEP2
自己実現

自分がやりたいこと
喜び・楽しさを感じる
ことに取り組んで
力を蓄えていこう

興味を
持つ
体験する

家庭・地域・学校などあらゆる場・機会を通じて
たくさんの感動・楽しさと出逢うことによって
心豊かな人生につながっていく

深く調べ
てみる・
挑戦する

ひとづくり

特に「まなびの根っこ」である子どもへのアプローチを重点に置く

2 生涯学習基本構想・基本計画の構成と期間

「第2次高浜市生涯学習基本構想」は、高浜市が今後目指す生涯学習の基本方針である「基本構想」と、構想実現に向けた取組みの方向性である「基本計画」によって構成します。

「基本構想」の計画期間は、平成24年度から33年度までの10年間とします。

また、「基本計画」については、策定後の諸情勢の変化や取組の進捗状況を踏まえて見直しができるよう、「第6次高浜市総合計画」の基本計画の計画期間に合わせ、前期（2年）・中期（4年）・後期（4年）とします。

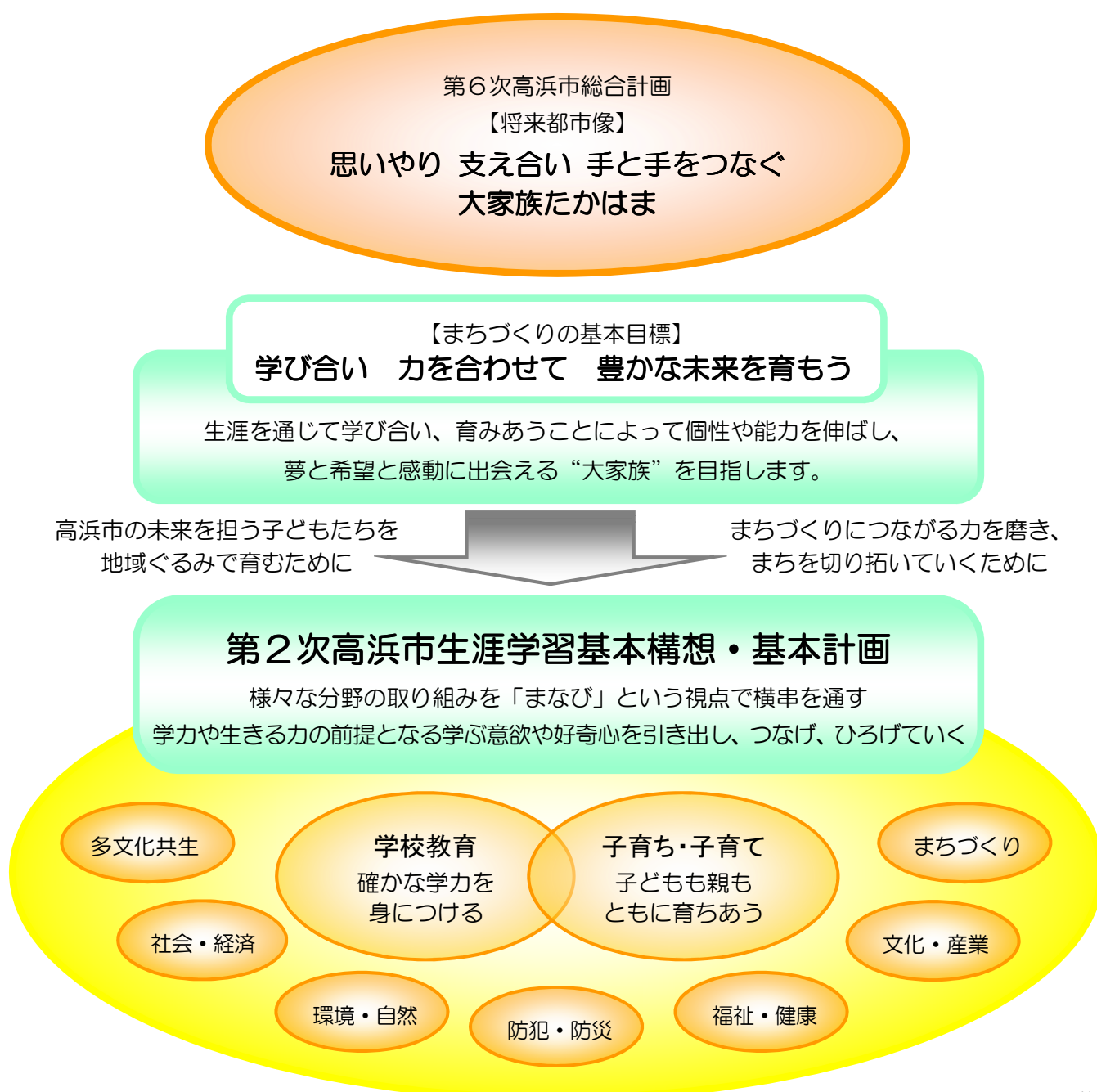


★ = 計画の見直し

3 生涯学習基本構想・基本計画の位置付けと推進体制

「第2次高浜市生涯学習基本構想」は、「第6次高浜市総合計画」の個別計画として位置付けます。推進にあたっては「高浜市教育基本構想」や「高浜市子ども・子育て支援事業計画」「高浜市しあわせづくり計画」（高浜市第3次地域福祉計画）といった他の計画とも連携・整合を図りながら、取り組んでいきます。

また、生涯学習は行政だけが担うものではなく、市民・団体・地域・事業者・関係機関など、多様な主体と連携・協力しながら推進していくことが不可欠です。各まちづくり協議会が策定している小学校区単位のまちづくり計画「地域計画」も踏まえて推進していきます。



就職と定年で3つに区切られた人生の3つの要素、
つまり学ぶこと、仕事をする事、人生を楽しむことを
年齢によって分割するのではなく、
1日24時間の中に分割する生き方なら未来がある。
1日数分であっても毎日何かを続ければ、
必ず人間は進歩する。
学ぶことに年齢は関係ない。
80歳を超えて毎日新しい発見があり、
毎年友人が増えていく人生は、本当に楽しいものである。

(糸川英夫「人類生存の大法則」より)

